

医学研究センター

研究主任部門

海老原 康博
(部門長)

1. 構成員

部門長 海老原康博 (EBIHARA Yasuhiro) : 国際医療センター中央検査部: 教授 (任期: R3.3.31)
副部門長 田丸 淳一 (TAMARU Junichi) : 総合医療センター病理部: 教授 (任期: R3.3.31)
下岡 聡行 (SHIMOOKA Toshiyuki) : 保健医療学部医用生体工学科: 教授 (任期: R3.3.31)
佐藤 毅 (SATO Tsuyoshi) : 大学病院口腔外科: 教授 (任期: R3.3.31)
部門員 町田早苗 (MACHIDA Sanae) : 医学研究センター: 講師
医学部の全基本学科及び保健医療学部の各学科研究主任

2. 目的・目標

本部門は、埼玉医科大学医学研究センター規程第3条により構成され、第9条に則り、研究現場とセンターの密な連絡を保つための活動を行うこと業務としている。研究主任に対して、基本学科の研究の責任者であると同時に研究費を適正に管理・運用する責任者であることも自覚していただき、適正な運用を推進するよう指導する。研究者向けの情報を発信し、研究主任から各所属部署内での周知徹底を依頼する。学内での共同研究が推進できるよう体制整備に努め、支援活動を行う。学内グラント成果発表会を2回/年開催し、学内の研究推進を図る。

3. 活動実績

(1) 学内グラント受賞者成果発表会の企画・開催

ア 第22回学内グラント成果発表会

2021年7月16日(金) 17:00から18:30

毛呂山キャンパス第3講堂

総合医療センター 管理棟2階 カンファレンス1 (テレビシステム中継)

国際医療センター 教育研究棟 5階会議L-5-2 (テレビシステム中継)

学内LAN ライブ配信

ビデオ収録配信

発表内容

「ヒト卵子幹細胞を体外で成熟卵子へ分化させる培養システムの開発」

赤堀太一 総合医療センター 産婦人科

座長: 総合医療センター 産婦人科 矢部慎一郎先生

「発達期経験依存的受容野可塑性におけるカンナビノイドの役割」

伊丹千晶 医学部 生理学

座長: 埼玉医科大学病院 脳神経内科・脳卒中内科 伊藤康夫先生

「末梢血由来骨芽細胞系細胞の同定と機能解析および動脈硬化発生機序の解明」

横田和浩 埼玉医科大学病院 リウマチ膠原病科

座長: 埼玉医科大学病院 血液内科 伊藤善啓先生

「在宅ヘルスケアモニターを用いて、早期診断と治療を直結させた包括ケアシステムの確立」

小林威仁 埼玉医科大学病院 総合診療内科

座長: 国際医療センター 臨床検査医学 海老原康博

関口記念特別賞

「減数分裂起程および生殖細胞分化におけるMgaの機能解析」

浦西洸介 医学部 ゲノム基礎医学

座長: 埼玉医科大学中央研究施設 形態部門 水野洋介先生

参加人数：合計 95 名

毛呂山キャンパス	21 名
川越キャンパス	3 名
日高キャンパス	7 名
学内 LAN ライブ配信	61 名
ビデオ収録視聴	3 名

イ 第 23 回学内グラント受賞者成果発表会

2022 年 3 月 25 日（金曜日）17：00 から 18：30

毛呂山キャンパス 本部棟 第 3 講堂

川越キャンパス 管理棟 4 階 会議室 2（テレビシステム中継）

日高キャンパス 教育研究棟 2 階 会議室 1（テレビシステム中継）

学内 LAN ライブ配信

発表内容

「抗がん剤誘発性神経障害を緩和する薬剤の探索」

飯島 洋介（総合医療センター 歯科口腔外科）

座長 総合医療センター病理部 百瀬修二先生

「深層学習を用いた IgA 腎症診断のための形態学的バイオマーカーの開発」

石川 雅浩（保健医療学部 臨床工学科）

座長 保健医療学部 臨床工学科 小林直樹先生

「iPS 細胞を利用した原因不明小児拡張型心筋症発症メカニズムの解明」

保土田 健太郎（国際医療センター 小児心臓外科）

座長 リサーチアドミニストレーションセンター 千本松孝明先生

「PPAR γ 1 新規プロモータ KO マウス胎生致死，胎盤巨細胞，血小板巨核球核内倍化との関係」

井上 郁夫（大学病院 内分泌・糖尿病内科）

座長 医学部 生化学 小谷典弘先生

丸木記念特別賞

「原発性アルドステロン症に対する新規診断法の開発およびその産業化」

西本 紘嗣郎（国際医療センター 泌尿器腫瘍科）

座長 大学病院 内分泌・糖尿病内科 井上和之先生

参加人数：合計 69 名

毛呂山キャンパス	22 名
日高キャンパス	1 名
川越キャンパス	3 名
学内 LAN ライブ配信	43 名

(2) 埼玉医科大学雑誌 48 巻 1 号医学研究センター研究主任部門報告

4. 自己評価と次年度計画

4-1. 前年度の改善計画に対する今年度の点検・評価

学内グラント受賞者成果発表会の参加人数が頭打ちとなっていることから，学内グラント受賞者成果発表会の内容・形式を改善し，より多くの参加が得られ，活発な討論を展開できるように対策してきた。新型コロナウイルス感染拡大の対応により，会場での参加に加えて，ライブ配信を取り入れて学内グラント成果発表会に参加しやすい環境を取り入れた。また，学内グラントの趣旨を鑑みて，発表では助成により科研費申請に向けての準備状況を盛り込んで頂くこととした。

4-2. 今年度の自己点検・評価に基づく改善計画

来年度から学内グラントの受賞者の選出基準などが変更になるため，それに合わせて，学内グラント受賞者成果発表会の内容・形式を改善し，より多くの参加が得られ，活発な討論を展開できるようにさらなる改善を行っていく。また，研究主任部門として大学全体の研究を活発化するために学内での共同研究等を加速させるための方策を議論していく。